地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その52

文：田崎 敬修

多くの信者を大山祇神社に導いた道標

大山祇神社参拝の仕方は時代と共に変化してきましたが、自動車が出現するまではもっぱら徒歩でした。その参拝者が道に迷わず大山祇神社へ行けるように導いたのが道標でした。現在はその役目を終え、路傍にひっそりと建っている道標を紹介します。

①芹沼の道標

①若松に向かう越後街道は芹沼村に近づくと、安座川を渡って野沢宿に入る道と芹沼村に入る道の分岐点にさしかかります。現在、その分岐点に朽ちて割れた道標があって読み取れる文字は、「元治元子」「祇」「従是□通」「一里半余」「北越水原」「講中」「吉日」です。まちがって野沢宿に入らずに安座川沿いに進むように水原講中が建立した道標と思われます。

②牧の道標

②堀越村を通過し牧村端を通って中野川方向に進むとすぐに道標が道脇に建っています。文字は「向　右さくば・左大山神社」で、現在は土中ですがこの文字の下に「道」「上野尻村斎藤新伍」という文字があるそうです。道標の位置が昔のままとすると中野川の方向に道があるということになるのですが、川を渡ったのか左岸沿いに進んだのかは不明です。

③原町の丸井ショッピングセンター脇の道向かいの私有地に「大正二年」「大山祇（下部は土中）と刻まれた道標がありますが、この道を下った辺りに埋没していたのが道路工事の時見つかったそうです。大正２年（1913）は岩越鉄道が野沢まで開通した年ですので、参拝者は野沢までは汽車を使い、駅からは徒歩で大山祇神社に向かうようになったため、道の分岐に建てた道標だったのでしょう。

③原町の道標

④上野尻の西光寺を過ぎて芹沼村に向かう田の畔に「万延元年　大山祇神社参道」（万延元年＝1860年）の道標があったそうですが、圃場整備の折、行方不明になりました。

今月の表紙

今回は、こゆりこども園のプール遊びの時間にお邪魔しました。この日の町内の気温は30度を超え、最高のプール日和に。園児たちは、水鉄砲で遊んだり水を掛け合ったりして、夏の水遊びを楽しんでいました。

編集後記

皆さんは、「夏」と言えば何を思い浮かべますか？

夏っぽい企画を考えたいと思い、「にしあいづ物語100選 夏の特別編」を企画してみました。レイアウトも雰囲気を変え、掲載作品もいくつかの候補の中から選ばせてもらいました。町にまつわる怪談・奇談がある！という方はぜひぜひお寄せください。（秦）

にしあいづ
広報にしあいづ №754　令和３年８月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/

PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。